

令和元年5月 岩手県教育委員会定例会 会議録

1 開催日時

開会 令和元年5月13日(月)午後1時30分

閉会 令和元年5月13日(月)午後2時00分

2 開催場所

県庁10階 教育委員室

3 教育長及び出席委員

佐藤 博 教育長

八重樫 勝 委員

小平 忠孝 委員

芳沢 荃子 委員

畠山 将樹 委員

新妻 二男 委員

4 説明等のため出席した職員

佐藤教育次長兼教育企画室長、梅津教育次長

大畑教育企画推進監、山本予算財務課長、山村教職員課総括課長、金野小中学校人事課長、高橋県立学校人事課長、木村学校調整課総括課長、軍司産業・復興教育課長、藤澤特命参事兼高校改革課長、橋場生徒指導課長、小久保学校教育課総括課長、小野寺義務教育課長、里舘高校教育課長、高橋特別支援教育課長、清川保健体育課総括課長、佐藤生涯学習文化財課総括課長、岩淵文化財課長

教育企画室：浅沼主任主査、佐々木主事（記録）

5 会議の概要

第1 会期決定の件

本日一日と決定

〔事務報告〕

第2 事務報告第1号 県立野外活動センター災害復旧事業の経過報告について（生涯学習文化財課）

別添事務報告により報告

八重樫委員：1月に現地を視察する機会がありましたが、交通の利便性について、前の野外活動センターだと、電車やバスの利便性が高かったと思いますが、今回の建設地はかなり道路が複雑となっています。これから整備すると思いますが、その辺りの利便性はどのようなのでしょうか。

佐藤生涯学習文化財課総括課長：御指摘の通り、建設地の変更をしないことが前提ですが、BRTの一番近い駅は小友駅で、約4km離れています。高田松原の場合は、交通の便もよかったので、送迎バスは設置していませんでした。しかし、今回の場合は、そのようなものが必要とも考えられるので、検討を進めています。いずれにせよ、利便性を高め、より多くの方々にご利用いただくような工夫をこれから考えなければならぬと思料しています。

八重樫委員：土曜日にユネスコの会議があり、その際に広田町の震災の写真を用いながら、小友あたりの震災の状況や、どのように助かったのか説明があり、その中で、広田湾の両方から津波が襲ってきたため大変だったという報告がありました。その報告を受けてから地図を見ると、建設予定地はまさに説明のあった場所なのですが、そのようなことも検討したのでしょうか。

佐藤生涯学習文化財課総括課長：当然、安全面については、十分検討の上、当該箇所が安全だということでも事業を進めています。加えて、津波への経験ということでは、野外活動センターが備えるべき機能の一つとして、子ども支援機能と呼んでいるものもあり、いわゆる復興教育の拠点としての機能も加えながら、プログラム等の開発を行いたいと考えています。

佐藤教育長：一点補足をしますと、八重樫委員にご発言いただいた、津波が両方から襲ったということ

についてですが、今回地図上にて青印で建設予定地を示していますが、少し北の小友の位置の、地図上で薄く赤色で塗られている箇所が、津波が両方向から押し寄せたところです。今回建設する場所は、少し南の旧広田水産高校の箇所であり、津波浸水区域よりも高台となっています。

新妻委員：全体的に規模縮小せざるを得ないことはやむを得ないことだと思いますが、艇庫の復旧が難しいということについて、野外活動センターの事業として、カヤック等を使用して行っていた研修ができなくなるということなののでしょうか、それとも部活動や民間の方々に艇庫を貸す事業ができなくなるということなのでしょうか。野活の事業として行っていたことが今回やめざるを得ないのか、保管して貸すことが今回やめざるを得ないのか、説明を聞いていて疑問に感じました。

佐藤生涯学習文化財課総括課長：以前の野外活動センターの左側に、マリーナ艇庫があります。水門で囲われていた中で、カヤックを使用するプログラムもあり、人気があったものです。こちらは魅力的なプログラムでありますので、是非継続したいと考えたのですが、すぐに外海である状況から、断念せざるを得ませんでした。プログラムとして生かしたかったものの、それができませんでした。そのような経緯から、艇庫は復旧しないという表現にしています。

新妻委員：ありがとうございます。

第3 事務報告第2号 県立美術館企画展における実行委員会方式の取組について（生涯学習文化財課） 別添事務報告により報告

芳沢委員：5月26日まで開催のタータン展は、県立美術館の単独事業ということでしょうか。

佐藤生涯学習文化財課総括課長：その通りです。

芳沢委員：かなりの入館者だったということで、個人的にはよかったと思っていますところですが、ホキ美術館展やジブリの展示会に係る見込みの観覧者数は、過去に開催した同規模の美術展を参考に算出しているものなののでしょうか。

佐藤生涯学習文化財課総括課長：他県の開催実績や本県の状況等を勘案し、美術館で算出したものです。

芳沢委員：開催日数について、ホキ美術館展は確か40日程度だったと記憶していますし、ジブリの大博覧会についてはもう少し長い期間だったと思います。一桁違う見込みということは、根拠があるのだと思いますし、ホキ美術館展のポスターに絵が使われている森本草介さんは、一関市に疎開したということで、県内の方には来館してほしいと思います。また、ホキ美術館は、来館者が多い美術館ですので、この機会に絵を見ていただきたいと思います。

佐藤生涯学習文化財課総括課長：御指摘のように、見込みの観覧者数が一桁違いますが、ジブリの場合は非常に年齢層が広く、他県の開催時の実績から考えると、見込者数はかなり縮小されるものの、この程度は見込まれると考えております。ホキ美術館展についても、現在コマーシャルが放送されており、その効果は非常に大きいものですので、期待をしています。

畠山委員：この取組についてはいつも楽しみにしており、今回も興味を惹かれるもので、これからも充実した取組を続けてほしいと思っています。ただ、人気の展示を観覧した際に駐車場の問題を感じることもあります。何か利用者からの意見はありますか。

佐藤生涯学習文化財課総括課長：美術館入り口近くの駐車場は、美術館だけの駐車場ではなく、広域公園の駐車場となっています。美術館自体も、県有地ではなく、市有地を借りて建てているものです。しかし、美術館近くの駐車場は、通常、美術館への来館者が利用する頻度が比較的高いものとなっていますし、駐車場の対策としては、例えば、ジブリの大博覧会の場合は、現行の駐車場では収まらないと予想されるので、シャトルバスを運行することを考えています。駐車場に関する苦情は承っていませんし、来館者へのアンケートで来館方法等を把握していますので、その結果を以後の対策に活かしています。

畠山委員：子どもたちも興味があるイベントだと思うので、近隣の市と協力しながら、安全でより多くの人々が困らずに観覧できるような取組を行ってほしいと思います。

新妻委員：実行委員会方式で行うという取組は良いと思います。先ほど効果があるという発言がありましたが、県立美術館が企画を考え、実行委員会方式で呼びかけて展示を行うのでしょうか。あるいはテレビ局等が企画を考え、美術館に持ち掛けるのでしょうか。同じ実行委員会方式で行う中で、どちらが率先して声かけを行っているのでしょうか。また、全ての企画のうち、どの程度が実行委員会方式で行うのか、当初から予定されているのでしょうか。中身によって増減があるのでしょうか。

佐藤生涯学習文化財課総括課長：例えば平成28年の野口久光シネマ・グラフィックス展については、最初ということもあり、県立美術館からの声かけでスタートしました。しかし、徐々にテレビ局等から

も提案いただくようになってきています。我々が望んでいるのは、そのような提案を多くしていただいて、話し合いの中で絞り込んでいく形になることです。今は、その途上であると認識しています。もちろん報道機関は企業ですので、絶対に赤字を出してはいけません。最初の方は赤字の企画もあり、非常に厳しい状況でありました。さらに、県内すべての報道機関と実行委員会を組んでいるわけではありませんが、我々の理想としては、全ての報道機関と一定期間内に組めれば良いと考えています。

新妻委員：年間何回実行委員会方式で行っているのでしょうか。上限や下限があるのでしょうか。

佐藤生涯学習文化財課総括課長：大変失礼しました。回答が漏れていました。企画展6本のうち1本は、アートフェスタと呼ばれる芸術展を開催していきまして、これは単独開催です。残りの5本のうち、できるだけ多く実行委員会方式で開催したいと考えていますが、相手方の都合もあるので、このような実績となっています。

会議結果の公表は、教育長に一任することとして議決された。